

ヒトの心理とページづくり(全6回)

第5回:アフォーダンス理論

執筆:蝦名 晶子(ディーシーティーデザイン)

人間の行動には、「法則性」があると言われています。
これをうまく活用し、より良いページづくりをしてみましょう。

「アフォーダンス理論」とは

「アフォーダンス理論」とは、これまで体験してきたことにより、自分の中に価値づけられる情報(や、行動)のことをいいます。

例えば、ドアの形を見て、どちらの方向に開けると良いかがすぐにわかったり



初めて訪れた施設内でも、館内に設置されているサインを見ると、トイレがどこなのか、エスカレーターがどこなのか、わかりますよね？

こういった施設などのサインも
共通のものや似ているものが多いので
すぐ理解することができますね。



ホームページで価値づけられていること (1)

テキストに下線がついているものはクリックできる

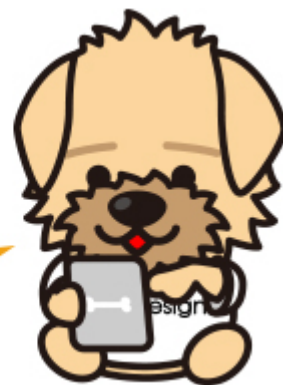
インターネット上では古くから「青く下線がついているテキストはクリックできる」と認識されています。文章の中で、強調したいテキストについつい下線をつけてしまったりしがちですが、ホームページ上での下線は「リンク」を意識させてしまうため、避けた方が良いでしょう。

フォトギャラリー



逆転ホームインの瞬間です。

クリック（またはタップ）で拡大写真を
表示してくれるんだね！



画像のまわりに線がついている場合も「クリックして拡大できる」といった意識を持っている人が多いでしょう。

ホームページで価値づけられていること (2)

立体感のある画像はクリックできる

①

健康診断について

②

健康診断について

③

健康診断について

上記①～③を見てみてください。

「健康診断について」とありますが、①は単なる見出しにも見えますね？

②は背景がグラデーションになっているため、「リンクボタンかも」という意識を与えていると思います。

③はさらに、白いフチとシャドウがついているため、「クリックできる」という印象を持たせています。

まとめ

人には潜在的な意識があり、長年培われた意識はなかなか変えることができません。

あなたのホームページを迷うことなく読み進み、目的を達成してもらえるようにするためには、こういった「もともと持っている意識や行動」を考慮したページづくりが重要となってきます。

人間は視界から8割近い情報を得ますので、会話ができないホームページ上でのこういった「おもてなし」は非常に重要なポイントになります。

次回のコラムを見る »



蝦名 晶子(えびな・あきこ)

ディーシーティーデザイン 代表

NPO法人あおもりIT活用サポートセンター 副理事長

<http://dct-design.net/>

<http://aoit.jp/>

生まれも育ちも、現在の活動拠点も青森県青森市。

地元青森のショッピングセンターの販売促進課でマーケティング・共同販促・広告・イベント企画・ディスプレイ等に携わる。「何かをつくりあげる」ことに魅力を感じ、「デザインを発注する側」から「デザインする側」へ転身。2004年に「ディーシーティーデザイン」を設立、Webサイトや紙媒体の企画から制作、活用提案、さらに継続的な運用支援を行っている。クリエイター向けのセミナー講師のほか、経営者向けの講演なども行う。2012年、青森県内の仲間とNPO法人あおもりIT活用サポートセンターを設立。IT教育部会を担当し、ITに関わる人材育成に力を注いでいる。

何事も「つなげる」ことが好き。人と人、モノやコトはひとり(ひとつ)よりもつながることでより良いものになると信じている。自他共に認める「愛犬家」で、縁あって里親になったフレンチ・ブルドッグの「タロウ」を溺愛中。

